

令和 7 年度新城市市長選挙立候補予定者公開政策討論会政策シート

立候補予定者氏名	下江洋行
議題	人口をどう考えるのか
議題に関する政策	
《人口動向分析のポイント》 本格的な人口減少時代をむかえ、本市の人口は、この 20 年間で約 20 % 減少し、高齢化率（65 歳以上人口の割合）は約 39 % であります。また 15 年ほど前から少子化の進行が早まり、令和に入ってからにはさらにその傾向が顕著となっております。そしてこの先 20 年前後には、15 歳～64 歳の生産年齢人口の割合より、高齢人口の割合の方が大きくなることが予測できます。 このような状況の中で、県内・県外・近隣市町村というエリアのとらえ方にもとづく転出入の動向、20 歳・30 歳代の女性人口の動向、10 歳代後半の年代層が 20 歳代前半の年代層になる時の社会増減の動向、0 歳～4 歳の人口の増減率、外国人市民の人口動向（国別、年代層等）などについてのこれまでの推移と現状、及び将来の予測を数値としてしっかりと押さえたうえで、10 年後、15 年後の将来に備えバックキャスティングの考え方のもとで施策を推進していくことが求められます。 《必要な人口対策》 市の人口減少は進んでいきますが、若年層の転出入を均衡に近づけていくためにも、現状に正面から向き合い、これまで推進してきた施策である、若者政策、企業説明会、インターンシップ事業、企業誘致、移住定住促進、新規就農支援、各種子育て支援策を継続していくことです。そして新たな取り組みとして、プレコンセプションケア、地域雇用活性化推進事業、外国人政策（多文化共生推進事業）、空き家活用促進などに力を入れていく必要があります。また本市の豊かな自然に魅力を感じ、市外から訪れてくれる交流人口や、多様な形態で地域とつながる関係人口のさらなる創出を、地域の活性化につなげていくことも重要です。 人口減少は課題ではありますが、抗えない現実でもあります。新城市の人口ビジョンで、2060 年の目標人口を掲げていますが、この目標人口を死守するというよりは、将来予測される人口動態に対して、どのような地域づくりをしていくか、そのためにいかなる施策を打っていくかに主眼を置く必要があると考えます。	